

さらばわが青春のブルートレイン

ブルトレ命の元鉄ちゃん

「寝台特急『あけぼの』2014年3月ダイヤ改正で廃止!」、このニュースを見て、寂しさを覚えた鉄道マニアは多かったことでしょう。寝台特急「あけぼの」は現存する寝台列車の中で、往年のブルートレインの姿のまま走る、最後の寝台列車だからです。

まだ「北斗星」や「トワイライトエクスプレス」「カシオペア」といった、JRになったのちに誕生した豪華寝台列車がありますが、これらも2014年度末に



東海道本線三河三谷ー三河大塚間を走る東京行き上り寝台特急「はやぶさ」

予定されている「北海道新幹線函館開業」に合わせ、現在廃止を検討しているそうです。北の大地にわずかに残っている寝台列車の廃

止に伴い、半世紀以上続いたブルートレインの歴史にも、ついに終焉が訪れようとしています。

「ブルートレイン」は1958年に、当時の国鉄が寝台列車のグレードアップを目的に製造した寝台専用「20系」客車を使用し、「あさかぜ」として運行開始したのが起源で、青く美しい編成を見た鉄道マニアたちが、当時ヨーロッパで運行されていた夜行列車「トランブルー」にちなんで、「ブルートレイン」と呼んだことがネーミングの由来と言われています。私とブルートレインとの出会いは、今から40年ほど前にさかのぼります。当時電車大好き少年だった



東海道本線三河三谷ー三河大塚間を走る東京行き上り寝台特急「富士」



東海道本線大府－刈谷（現在は逢妻）間を朝日を浴びて疾走する上り寝台特急「さくら」

私は、台風による影響で遅れて昼間に走ってきた「東京行き上りブルートレイン」を偶然見たのです。目の前を通過して行ったその列車は「ヘッドマーク」を付けた電気機関車がけん引し、今まで見たことのない2本の白線の入った青い客車が十両以上連結されていて、初めて見た長く

美しいブルートレインに、心を奪われてしまいました。

ブルートレインの虜になった私は、夜の国鉄名古屋駅に通うようになりました。当時のダイヤでは、東京駅を夕刻に出発した九州方面行きの下り列車が、5時間走って名古屋駅に到着していたのです。当時はブルートレインブームだったこともあり、午後9時過ぎの名古屋駅6番ホームには、

大勢の鉄道マニアが押し寄せていました。

中学生になると一眠レフを入手して、早朝の東海道本線を走る「東京行き」上り列車を撮影するようになりました。時には夜中に何時間も自転車を漕いで、蒲郡の東まで出かけたこともありま



関門トンネルを抜け、門司港駅構内の交直転換「デッドセクション」を通過する下り寝台特急「みずほ」

した。初めて乗ったのは、高校生になってからでした。夏休みにバイトし、貯めたお金で旅行するようになったのです。



西鹿兒島駅(現鹿兒島中央駅)を出発する上り寝台特急「富士」。日豊本線經由で東京着は何と24時間後！

ブルートレイン乗車の楽しみのひとつが「食堂車」でした。貧乏旅行でしたが、滞在費を削ってでも、食堂車での食事は外せませんでした。私の定番は「かつ重」。理由は食堂車の夕食メニューの中で、いちばん安かったからです(笑)。そんなブルートレインとももうすぐお別れかと思うと、今は何とも言えない寂しさがこみ上げてきます。